

誕生日と保育 パート I

共同保育の試み

○加藤 純子

加藤 さゆり

佐藤 弘子

加藤 惟一

(学校法人希望学園 葛飾こどもの園幼稚園)

I、目的

当園はいろいろな体験活動のなかで親の協力を求めて保育してきた。これからの保育は、もう一歩進めて園の保育専門職の仕事と、家庭日常生活全般にわたる両親との家族一との共同で取り組むべき仕事であると考え。子どもの成長発達と人間の生活それ自体の充実と発展という共同の目的のために園の保育、園の生活を成り立たせること。そのような意味での共同保育はどの様に成立しうるか。毎月、繰り返される誕生会を通して一考察を述べる。

II、研究の方法

誕生会に関する保育実践過程の考察

1、誕生会の進め方・関連する活動の見直しと考察

a、これまでの誕生会の進め方について

b、父母のアンケート結果について

c、教師間の話し合いによる考察・検討

2、実践の期間

平成8年4月から10月

III、実践研究の経過

1、これまでの誕生会の進め方について

誕生して、4、5、6年。この最も幼い時期に大勢の中で迎える誕生会。家庭で大切に育まれてきた命。幼稚園では、この誕生会を一人ひとりの個を見つめるよい機会にしたいと考え、命が守られてきた事をみんな感謝し、祝うために試みを続けてきた。15年前には、教師が手作りのプレゼント冠、バッチ、帽子などを用意した。誕生会当日はペープサート、人形劇、紙芝居などをして祝った。10年ほど前から母親も共に参加する誕生会を試みた。物のあふれる時代に手作りの誕生会を願って母親たちの協力を求めるにいった。それが現在の手作りのプレゼント、おやつ、だしもの誕生会へと変わったのである。

2、現在の誕生会のもちかたについて

①誕生会とそれに伴う活動 表1参照

②プレゼントについて

a、誕生の子へ手作りプレゼント（親から）

親が我が子の為に独自の箱を造る。日常使いやすく、また子どもの夢が広がるようにとの思いを込めて。

b、誕生会を祝うために誕生月の母親からの出しもの
日常保育内容のテーマに合ったうた、お話、劇など

c、全員にささやかなプレゼント（園から）

昔からの素朴な遊びが出来るものを選んで

d、手作りおやつ

その物の味を大切に味わう思いをこめて 季節感のある食物、一緒に食べる

誕生会とそれに伴う活動

表1

全体集会	誕生日の母親が来園する
親の手作りプレゼント	親の思い思いの箱が宝の箱に変わります
親によるだしもの	(劇、合唱、踊り、ペープサートなど) 母親による熱演
手作りおやつ	クッキー、豚汁等季節により
園から子ども全員にプレゼント	その月にによって小さなものを渡す。遊び方も必ず知らせて
誕生児の紹介	親が感動した誕生の時の様子をクラスの友達と一緒にきく

③誕生会の予定表(1996年)

表2

月	だしもの	プレゼント	おやつ
4	おおきなかぶ		マドレーヌ
5	かずくんのき いろいろ長靴	ローセキ (70円)	クッキー
6	そらいろのたね	ビー玉 (100円)	ゼリー
7	たろうのともだち		アイス
8	おばけいしゃ	しゃぼんだま (35円)	メロン
9	あきのひのむしまつり	球根、ポット (159円)	ぶどう ふかしいも
10	さんじのおちゃんにきてください	虫めがね (270円)	豚汁

《親からの手作りプレゼント》 過去の例

・Tシャツ アリテックスを使って絵を描く

・布の袋 上に同じ

・ナプキン こどもの描いた絵を刺繍する

- ・箱 空箱でオリジナルの入れ物を作る
(今年度は箱のプレゼントである)

3、誕生会についての親へのアンケート

①アンケートの目的

- a、ここ10年ほど母親参加の誕生会を園がリードする形で持ってきている。しかし、母親の意見も是非、参考にしてよりよい誕生会としたいと考えた。
- b、園からのプレゼントは、果たして活用されているのか。これでよいのか。もっと他に良い考え・アイデアがあるのかを知る。

②アンケートの結果(一部、代表例)

- a、誕生会当日の母親の来園参加について

メリット : だしものは大変であるが子どもの喜ぶ姿を見ると嬉しい。共におやつや食事を食べるのは普通の参観とは違い子と共に楽しめた。他の母親との良い交流の時ともなった。

デメリット : 下の子どもがいて忙しい。近所や祖父母に預けることもできないので大変である。

- b、園からのプレゼントについて

親子で遊んで楽しんだ物には球根、種、シャボン玉、ローゼキ、紙風船、折り紙があった。

無回答が11人もいた。これは楽しく親子で遊べなかったことと思われ反省させられる思いであった。

4、教師間の話し合いによる考察・検討

今までも色々な試みをしてきたが主に、誕生児にどの様に焦点を当てながら当日を迎えるかを検討した。

- a、日常保育の中で

- ・クラスの壁面に誕生月の子供の名前をいろいろな方法ではる。
- ・みんなの前でその子がする話を聞くようにする
- ・クラス担任と一緒に手形をとって誕生カードを作る。
- ・クラスの中でその子を紹介をして行く(全員が集まるお弁当のときに、好きな遊び、名前、家庭の事)
- ・色々な場面での子どもの様子を知るために教師間で情報を交換する。
- ・赤ちゃんのときの写真を誕生会1週間前にクラスに貼る

- b、母親を迎えての誕生会当日に

- ・母親から話を聞く(名前の由来、赤ちゃんのときの様子、着ていた服や遊んだ玩具)

IV、経過のまとめ

充実した協力をえながら誕生会を実践することが出来た。この間に実施したのは、次のことであった。a、アンケートにより親が抱いている様々な思いを知ることが出来た。素朴な遊びを伝えたいとの願いは伝わ

ていない面がある。誕生会への参加は喜びだが多忙な中での参加でもある。b、実状をよく踏まえた上で保育内容の計画をたてる(プレゼントしたものを遊びの中に積極的に取り入れる。遊びの楽しさを親も一緒に共感できるように) c、誕生会について、親とさらに話し合ったり意見を聞く(だしものの内容、おやつについて、プレゼントで遊んだ様子、手作りの箱が出来までの様子など)。d 園の考え方についても話しより協力ができるようにする。(個を活かすこと、手作りのもので祝う、素朴なおもちゃの紹介) 親の協力を得ながらの誕生会は、教師にも親にも子どもをよく知る機会となった。

V、考察

当園では親の協力なしでは進められない多くの体験活動をしている。本研究により、誕生会として当然に行ってきたこれまでの協力関係を意識的に取り上げたことで一歩進んだ親との共同保育の試みが出来たと考える。要因は次ぎと思われる。①、親への働きかけをより積極的にした。(プリントによる連絡に頼らず、直接話し合う機会を持つ、アンケートをとり親の考えや、家庭での様子の一部がわかった。親子が共に過ごす時間を作る) ②教師間で誕生会について話し合う

(園としての考え方、具体的内容の検討、日常保育の流れの中にある事を明確にする)。今後さらに考えていかなければならない点としては子ども一人ひとりを良く知り、各教師の持味を生かした工夫を重視することである。そのためには、両親から直接にその子の誕生時のこと、子育ての喜びや不安など、今までに感じたこと成長の喜びや感謝、期待を聴き話し合う。又、両親が子の誕生日にちなんで話しあったことを書きとめておくことは大切である点も今後進めていきたい事である。又、親と協力を深めるためには、子育てや家事、仕事と多忙なことも考慮しながら計画を進める必要がある。反面で、この人とかかわりの希薄な時代に子供や子育てに思いを馳せ、協力して誕生会をすることの充実感、共同保育の大切さを折あるごとに訴え実践していくことが今後の課題と言える。この実践には園のリーダーであり責任を持つ人の明確な目的のもとに計画が進められることが必要であると考え。誕生会に関連する事項の中でも実践に関しては「園からのプレゼント」を中心にした。実践の経過についてはパートIIで述べる。